

# フォトニュース

## 楊津小学校で児童が習字を披露



習字を披露する4年生

▲12月1日、楊津小学校の1・2・4年生の児童達が平成24年の干支にちなんで、1・2年生は「たつ」、4年生は「辰」と毛筆で書きました。

平成24年がみんなにとっていい年になりますようにと願いながら、白い半紙に力一杯書きあげました。

## 保育園で竜の作品を作成



▲12月7日、猪名川保育園の年長組の園児が作成した平成24年の干支の辰にちなんだ竜の作品が披露され、一足早い新年を祝いました。

園児達は、厚紙や画用紙などで輪郭を作り、絵具を塗ってていねいに仕上げました。

## いなぼうが交通事故防止を啓発



▲12月8日、「年末の交通事故防止運動」として、イオン猪名川店で街頭啓発が行われました。いなぼうは、川西警察1日警察署長として啓発に奮闘しました。また、兵庫県警のマスクット「こうへいくんとまもりちゃん」も応援に駆けつけてくれました。

## いながわ 歴史ウォーク 106

### 近代猪名川の漁業

一庫大路次川など多くの支流を合わせて、下流は神崎川となる猪名川は、木材の流送や鮎を主とする漁場として経済性の高い川でした。

明治8(1875)年、太政官布告第23号が出され、村ごとに水面利用の漁税を負担することとなりました。町域では上・下阿古谷村と紫合村が年額各5銭、猪瀬・差組村8銭、万善・南田原村10銭、北田原・柏梨田村15銭、原村50銭、上野村70銭という記録があります。漁場は一村の「専漁場」と共同利用の「入会漁場」の二種がありました。明治34年には漁業法が制定されて、専用漁業の免許が必要となりました。



▲豊かな猪名川の流れ

大正7(1918)年の中谷村では漁業戸数は11戸(本業6戸、副業5戸)とありますが、8年・9年には本・副業とも各1戸となり、9年の漁獲高は鯉42貫、鰻14貫、どじょう6貫、川蟹5貫、その他14貫余で計416円となっています。名産の鮎の記録がないのは、池田村下流での漁法が変わり成長鮎の遡上が減少したことによるもので、この頃から琵琶湖鮎の放流が始まりました。

## 大島小学校でもちつき大会



きねが重い(六瀬幼稚園児)



もう一回(大島小学校児童)

▲12月13日、大島小学校の5年生の児童27人が六瀬幼稚園の園児23人と、同校庭でもちつき大会を行いました。児童達が春に早苗を植えてみんなで世話をし収穫したもち米を蒸し、杵と石臼でもちをつき、丸めて味わいました。

## ペレットストーブ火入れ式



▲12月14日、里山再生基本構想実行プログラムの一つとして、六瀬住民センターに設置されたペレットストーブの火入れ式を行いました。町内には他に、新ストーブを道の駅いながわに設置しています。

▼筆圧の強弱をうまく使い、はらい・折れ・はねがしっかりできている作品です。  
新免 悠さん(3年生)



猪名川小学校



▶運動会の玉入れで、がんばって玉を入れていた様子が伝わってきます。  
勝間 甲亮くん(2年生)



▲大きなお芋を力一杯引っばる様子を伸び伸びと描きました。  
田中 寿英くん(1年生)

▼文字の中心、大きさを意識し、右はらいが力強い力のある作品です。  
久保 拓海くん(5年生)

